

SPARC Japan セミナー2022

「電子ジャーナルの転換契約とAPC問題で変わるオープンアクセスの現状と課題」

開会挨拶・概要説明

林 和弘

(科学技術・学術政策研究所)

林 和弘



科学技術・学術政策研究所 データ解析政策研究室長。1995年ごろより日本化学会の英文誌の電子ジャーナル化と事業化を大学院時代のアルバイトを端緒に行う。電子投稿査読、XML出版、J-STAGEの改善、電子ジャーナル事業の確立と宣伝活動など、幅広いフェーズで実務に基づき考察と改善を加え、当該誌を世界最速クラスで発行する電子ジャーナルに整え、2005年にはオープンアクセス対応を開始し、電子書籍（ePub）対応の技術立証も行った。その経験を生かして日本学会会議、SPARC Japanなどを通じて日本発の情報発信をより魅力的にするための活動を行い、電子ジャーナルの将来と次世代の研究者コミュニケーションのあり方についても興味を持つ。2012年より文部科学省科学技術・政策研究所において政策科学研究に取り組んでおり、科学技術予測調査に加えてオープンサイエンスのあり方と政策づくりに関する調査研究に取り組んでいる。内閣府、G7科学技術大臣会合、OECD、UNESCOのプロジェクトにおけるオープンサイエンス専門家として活動。

SPARC Japan セミナー企画ワーキンググループは、オープンアクセスやオープンサイエンスに関わるセミナーを年に1回企画し、主にオンラインで公開しています。今回は600名を超える申し込みを頂きました。今回のテーマは「電子ジャーナルの転換契約とAPC問題で変わるオープンアクセスの現状と課題」です。

オープンアクセスとは

オープンアクセスは、学術情報へのアクセスは本来自由であるべきであるという理念の下、誰もが学術情報へ自由にアクセスできるようにする活動として始まりました。出版される論文がとにかく増える中、商業出版社による寡占と価格高騰により図書館が買い支えられなくなってきたという背景があり、その対抗策として始まったものと言えます。ICT（情報通信技術）が進展し、出版コストが低減したことが発端となったのもほぼ間違いありません。また、公的研究資金で得られた研究に対する社会説明責任をアメリカ国立衛生

研究所（NIH）が義務化したことなど、ファンディング側からの後押しがあったことで、実際にオープンアクセスが推進されていく転換期を迎えました。

実態としては、電子ジャーナルを無料で読者に提供する活動が中心となっています。最近では、ブダペスト宣言などにも明記されているように、単なるフリーアクセスではなく再利用と改変を可能とすることが重視され、論文だけではなくデータを中心とした研究成果に関してもオープン化の動きが活発になるといった展開を見せています。

このように、オープンアクセスの背景にある考え方は拡張しており、科学自身の開放と社会変容を促すオープンサイエンスの動きにつながっています。

機関リポジトリの現状

特に2000年代は、機関リポジトリが活発化しました。日本の場合、機関リポジトリに登録されたデータ数は非常に多い一方で、中身としては紀要論文等が多

くなっています（図1）。

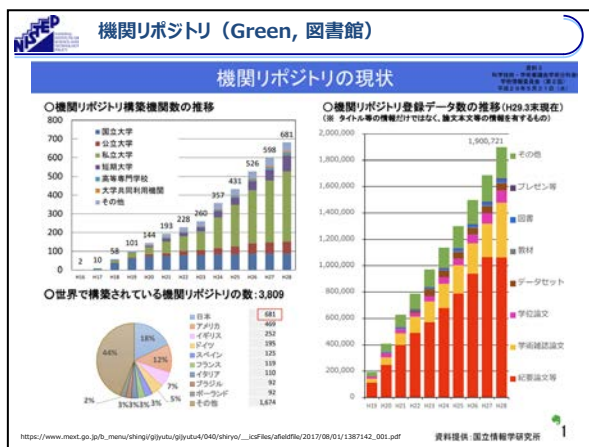
2020年代のオープンアクセスを理解する上で、2010年代以降、商業出版社がオープンアクセスに対応してきた点が非常に重要です。オープンアクセス学術誌要覧（DOAJ）の登録誌数が増え、中でも商業出版社の割合が急速に増えています。APC（article processing charge）の支払い額の半分以上が3大学術出版社に流れている現状を踏まえると、2000年代の機関リポジトリの理念とは異なる方向性が出てきていると言わざるを得ません。

本セミナーの目的

オープンサイエンスは、研究データの活用やシチズンサイエンスの発展など、科学研究の姿を変えるものとして注目を浴びています。一方、研究活動において依然として重要な役割を果たしている論文を中心とした学術情報流通も、大きく変化しています。先ほど説明したとおり、オープンアクセス黎明期の2000年代には日本でも機関リポジトリが始まり、2010年代には商業出版社がゴールドOAを活用し始めました。これまでとはまた違った様相が示されるであろう2020年代をどう見通すか、本日皆さんと議論したいと思えます。

本セミナーは、変化し続けるオープンアクセスの現状について、その背景を今の文脈で捉え直す場として企画しました。具体的には、APC問題と電子ジャー

ナルの転換契約を中心に、学術情報流通の課題の再確認を行い、ステークホルダーを超えた解決策を模索します。ご登壇、ご議論いただく皆さまには、お忙しい中ご協力いただきますことをこの場を借りて御礼申し上げます。



(図1)